中国の高大接続改革

北京研究連絡センター

築　美浦子

１．はじめに

日本の高等教育における重要な課題のひとつに「高大接続改革」が挙げられている。近年、高等教育に対するニーズが大きく変化し、社会において即戦力となるような人材や、国際社会で自立して活躍できる人材の育成が求められるようになった。これらの状況を踏まえ、2007 年の学校教育法改正では、グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育成するため、「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」という、「学力の 3 要素」から成る「確かな学力」を育むことが重要であることが明確にされた。しかし、現行の大学入試においては、知識・記憶力などの測定しやすい一部の能力や、選抜の一時点で有している能力の評価のみに留まっている、また丁寧な評価よりも学生確保が優先されるなど、高等学校教育で培ってきた力や、これからの大学教育で学ぶために必要な力を評価するものとなっていない状況が続いている [1]。このため、2012 年から中央教育審議会において「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について」の審議が開始され、2 年程の議論を経て、「高等学校教育」「大学入試」「大学教育」の一体改革を実施すべく、2015 年に、文部科学省より「高大接続改革実行プラン」[2]が発表された。現在は、これに基づき、高等学校教育改革、大学入学共通テストの導入、大学教育の質的転換が進められているところである。

一方、中国の状況をみると、英タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキング 2020 からも明らかなように、世界上位 100 大学に清華大学（23 位）、北京大学（24 位）、中国科学技術大学（80 位）の 3 校がランクインしており、同誌 Chief Knowledge Officer であるフィル・ベイティ氏も、「中国の大学ランキングにおける順位上昇は、数十年にわたり一貫して教育改革と教育投資に尽力した賜物であり、著しい成果をあげた。また、この情勢は今後もなお続くであろう。」と分析している [3]。日本学術振興会北京研究連絡センターが事務局となっている在中国日本人研究者ネットワークにおいても「世界の中で、どうしたら日本の学術研究が生き残れるか」といった話題が取り上げられ、「まだ、日本がトップレベルと言える分野もいくつかはあるが、（理系の）ほとんどの分野の研究において中国が日本を凌駕しているのが実情である。これらの研究は、アメリカ留学から帰国した研究者によって牽引されており、豊富な資金にも支えられ、今後ますます発展していくと思われる」といった状況が報告されるなど [4]、目覚ましい成果をあげ続けている。本報告では、広く世界で活躍する人材を生み出し続けている中国の教育改革、特に 2014 年から実施されている高大接続改革（新大学入試総合改革）について概観したい。

---

[1] 中央教育審議会、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」、文部科学省 HP、平成 26 年 12 月 22 日公開
[2] 文部科学大臣決定、「高大接続改革実行プラン」、文部科学省 HP、平成 27 年 1 月 16 日公開
[3] 【中国那些事儿】世界大学最新排名清華北大領跑亜洲、中国日報网、令和元年 9 月 14 日公開、https://3w.huanqiu.com/a/72d6dc/9CaKrnKmP7e?p=2&agt=8 （2020 年 2 月 13 日アクセス）
[4] 令和元年 7 月 1 日開催、第一回在中国日本人研究者ネットワーク「さろん」にて

２．新大学入試総合改革実施の背景

２−１．これまでの教育諸改革

中国では、改革開放以降、普通高等学校招生全国統一考試（日本の大学入試センター試験及び二次試験にあたる。以下「高考」とする。）が再開され、同時に様々な教育改革が実施されてきた。

1993 年 2 月、党中央と国務院から公布された「中国の教育改革・発展綱要」では、21 世紀を前にした中国教育の改革・発展の方針課題・目標・戦略・全体構想が提起され、これに基づき、教育法及び教育関連諸法を制定し、教育部が批准した初中高等学校の法人化が決定された [5]。

1998 年には、教育部より「21 世紀に向けた教育振興行動計画」が公布され、「2000 年までに、積極的かつ着実に高等教育を発展させ、高等教育への進学率を 11%前後とする。2010 年までには、高等教育の規模を大きく拡大し、就学率は 15%程度、いくつかの大学及び重点学科が世界一流レベルかそれに近いレベルに達する [6]」という目標のもと、1998 年から 2005 年までの 7 年間で、高等教育就学率を 9.8%から 21%にまで上昇させた [7]。同時に「211 プロジェクト」「985 プロジェクト」[8]等を通じて大学整備を進め、現在は高等教育就学率が 48%、多くの重点大学が世界レベルに到達している。

また、今後も教育を国家経済戦略の柱として重視しており、アメリカの GDP80%に比肩するためには、工業企業従業員やハイエンドのサービス業従事者等、労働者一人当たりの教育年数を 1-2 年上乗せする必要があるといった具体的な試算も行われている [9]。さらに、「世界一流大学・一流学科構築（双一流）」等の競争的資金を導入し、大学同士を競わせており、各大学では、教員に対する業績評価を実施し、結果により職位や給与、研究費等に係る見直しを行うなど、教育研究の質の向上に力を入れている [10]。

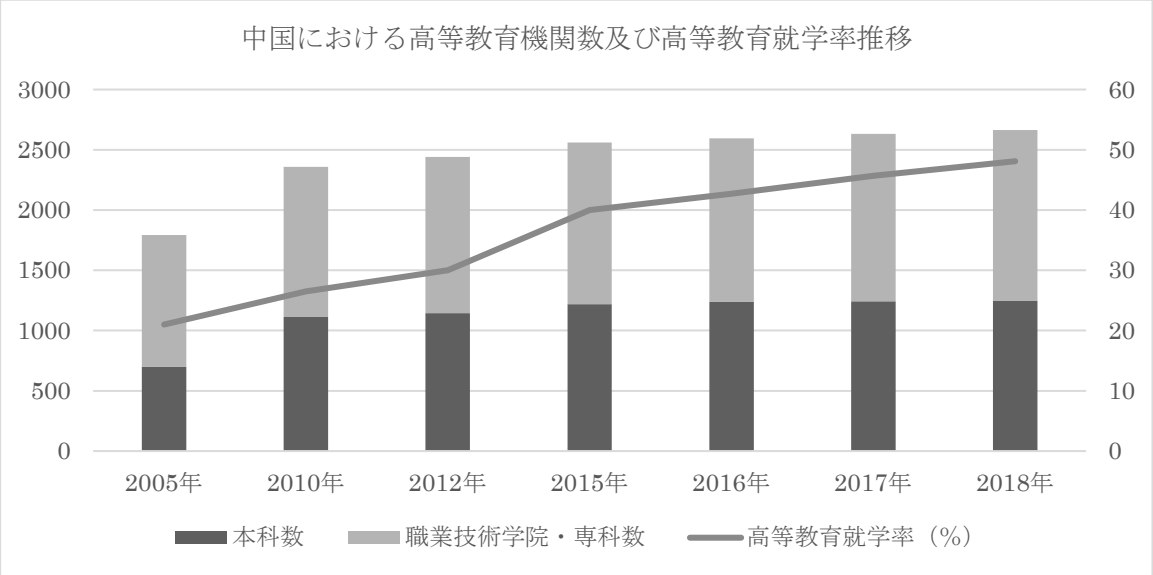
２－２．現行の高考に係る諸問題

しかし、高等教育の急速な大衆化は、同時に、公平性を保ちつつ、いかに教育の質を保証するか、また、どのように経済社会の需要人材とのバランスを図るか、という問題を生み出してきた。

下のグラフは、近年の中国高等教育機関数と高等教育就学率をまとめたものである。本科（大

---

[5] 遠藤誉、『中国教育革命が描く世界戦略 中国の国立大学法人化と産官学協同』、厚有出版、2000 年、PP.108-113
[6] 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、社会科学文献出版社、2018 年、P.19
[7] 周慧梅編著・三潴正道監訳・平野紀子訳、『図解現代中国の軌跡　中国教育』、科学出版社東京、2018 年、PP.142-143
[8] 「211 プロジェクト（211 工程）」は、「21 世紀までに 100 あまりの大学を重点的に整備する」ため、1995-2011 年にかけて実施されたもの。「985 プロジェクト（985 工程）」は、1998 年 5 月に開催された北京大学 100 周年記念式典での江沢民元総書記の講話に基づき、「世界先進レベルの一流大学を構築する」ため 1998-2007 年にかけて実施されたプロジェクトである。
[9] 楊学为主編、前掲、P.4
[10] 日本学術振興海外学術ポータルサイト【国際協力員レポート・中国】「中国の大学における教員業績評価－世界レベルの大学構築を目指して－」、2019 年 4 月 4 日公開、https://www-overseas-news.jsps.go.jp/wp/wp-content/uploads/2019/04/2018kenshu_15pek_inoue.pdf (2020 年 2 月 13 日アクセス)



中華人民共和国教育部教育発展統計公報（2005-2018）[11]より筆者作成

学学士課程）ついては、2000 年代に急増し、2018 年は 1,245 校に達しているが、このうち重点大学と呼ばれる 211 プロジェクト指定校は 112 校と 、全体の 10%に満たない。211 プロジェクトでは、1995 年から 2011 年の 15 年間で約 470 億元（約 7,000 億円）が投入され、更に 985 プロジェクトで、112 校から厳選された 39 校に対して、10 年間で約 670 億元（約 1 兆円）が投じられた [12]。現在でも重点大学と非重点大学とでは、大学の管理・運営体制や設備、教育研究指導に大きな差があり、この上位約 10%の大学に入学するため、厳しい受験競争が展開されている。

都市部では、一般的に幼稚園から小学校の授業を先取りした指導が行われ、就学前教育の段階から受験を意識した教育が開始される。義務教育段階（学区制）では、重点大学の付属小・中学校や実験校に入学するため、多くの子女が母親とともに学区内に移住し、周辺借地権・賃貸料の高騰を招く事態となっている [13]。考高期間中は、各種報道で関連ニュースが取り上げられるなど、子供の教育は、両親・祖父母を含めた家庭の一大関心事であり、家計に占める教育費の割合も大きい。このため、大学で何を学びたいかを考えず、両親や教員の意向により、より有名な大学へ進学するというケースも多く、入学してから自分の学科に興味関心が持てず、

2019 年 6 月 7 日 高考当日の様子
（清華大学付属中学校前）

[11] 教育発展統計公報、中華人民共和国教育部 HP、http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_fztjgb (2020 年 2 月 13 日アクセス)
[12] 天野一哉、『中国はなぜ＜学力世界一＞になれたのか 格差社会の超エリート教育事情』、中央公論新社、2013 年、PP.122-124
[13] 同上、PP.54-78

学習に支障をきたすこともある。受け入れる大学側でも、学生への補習等を実施しているものの、能力不足や学習に対する消極的な態度に対する不満等、学生募集におけるミスマッチが問題となっている[14]。

また、近年はより質の高い教育を求めて、あるいは応試教育（受験教育）の弊害を避けるため、インターナショナルスクール等に入学する子女も多く、海外留学者数も、以前と比べて割合的には緩やかになりつつも、増加の一途をたどっている[15]。中国の高校・大学においては、最も優秀な層は米国へ、次の層が英国・欧米諸国へ留学するものといった雰囲気があり、経済的条件が許せば、国内の大学・大学院よりも海外の高等教育機関に進もうとする傾向も強く、国際的な高等教育機関競争に対応する必要もある[16]。

更に、地域間における教育の質・入学機会の不均衡も大きな問題である。中国では地方から都市部への人口流入を防ぐため、義務教育期間中は本籍地で割り当てられた学校に通うこととなっており、地方から都市部に移住している労働者の子女は、学齢期になると親元をはなれ、祖父母とともに生活しながら教育を受ける例も多い。また、大学の学生募集においても、本籍地省内での進学が優先されるため、大学の所在省内の学生に対しては募集枠が大きく、他省に割り当てられる募集人数は少ない。このため省をまたいで受験する場合は、省内の学生に比べ合格最低点が高くなる傾向にある。中には、高考成績が 750 点満点のところ、合格最低点が 100 点以上高くなる例もあり、公平性の確保が問題となっている[17]。

３．新大学入試総合改革

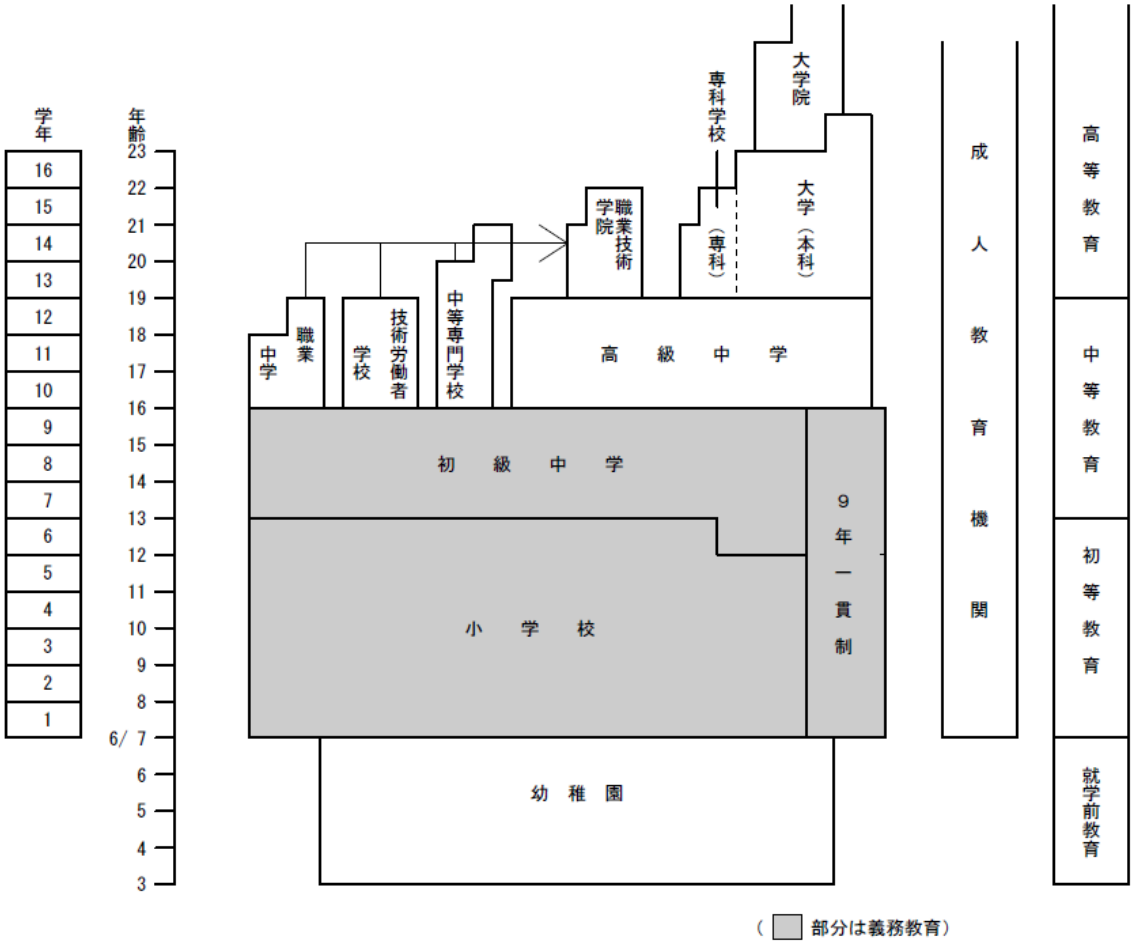
３－１．現行の中国の教育制度について

これらの状況をうけ、2014 年 9 月、中国国務院から「試験募集制度改革の深化に関する実施意見」（以下、「実施意見」とする）が公布され、「応試教育」や「唯分数論（点数至上主義）」といった状況を根本的に解決するため、新大学入試総合改革が開始されることとなった。本改革のポイントは、高考開始以来、初めて「教育・大学入試・学生募集」を含めた大枠での高大接続改革を実施することにあるため、まず、現行の中国の教育制度について確認しておきたい。

中国の教育制度は、日本と同じく６・３・３・４制をとっている。初級中学（中学校）から高級中学（高等学校）に進学し、本科（大学学士課程：４－５年）に進むという流れが一般的な大学進学ルートである。この他、高等職業教育機関として、専科（短期大学課程：多くが３年）、職業技術学院（専門学校：多くが３年）等が開設されている。

---

[14] 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、P21
[15] 王輝耀・苗緑編、『中国留学発展報告（2017）No.6』、社会科学文献出版社、2016 年、P.20
[16] 楊学为主編、前掲、P.21
[17] 天野一哉、『中国はなぜ＜学力世界一＞になれたのか』、PP.111-112



文部科学省「諸外国の教育統計」平成 31（2019）年版[18]より

３－２．新大学入試改革総合改革の特徴

前節でも述べたように、本改革のポイントは「教育・大学入試・学生募集」の３点を含めた大枠での高大接続改革を実施することにある。日本では、「高等学校教育・大学入試・大学教育」の一体改革が行われているが、この「高等学校教育・大学入試（・各大学の個別選抜）」改革にあたる部分が、中国での新大学入試総合改革と重なるところである。

加えて、高考は日本の大学入試センター試験・大学入学共通テストとは異なり、「二次試験の役割も担っている」「私立大学が少ないため、ほぼすべての大学・学科における人材選抜に使用されている」ところに特徴がある。「千軍万馬过独木橋（千軍万馬が一本の木橋を渡る）」と言われるのも、多くの受験生がこの一年に一度きりの高考を目指していくためである。つまり、高考は一度の試験であらゆるレベルの人材選抜に対応できるものでなくてはならず、設計が非常に難しい。毎年、「普通高等学校招生全国統一考試大綱」（以下、高考大綱とする）が公布されているものの、

[18] 文部科学省 HP、https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074.htm (2020 年 2 月 13 日アクセス)

点差をつけるために高考大綱の範囲外からも出題せざるをえず、高級中学ではこれら難問に対応する教育が行われることから、学生の試験負担が大きくなることになる。このため、中国では、高考改革と併せて、大学の自主招生（ＡＯ入試）や本科以外の専科・職業技術学院での入試実施等、高考以外の採用モデルが模索されており、「学生募集」が大きな検討課題として挙げられているのが特徴である。

３－３．新大学入試総合改革の具体的内容

新大学入試総合改革の具体的な内容としては、大学入試改革を総合改革の中心に据え、「１．大学入試内容改革」により、考査目標及び内容を明確化することで、「２．高級中学の教育改革」、「３．試験負担の合理的軽減」への道筋を作り、併せて学生・各種高等教育の募集採用方式の新モデル開拓のため、「４．科目選択の自由」、「５．多元採用」を導入することを骨子としている。

現在は改革開始から５年が経過したが、まだ全国で本入試総合改革が完全に実施されているわけではない。中国は国土も広く、地域間により教育環境等も異なるため、第一施行地区（2014 年～開始）である浙江省、上海市においてそれぞれの試みを実施し、第二施行地区（2017 年～開始）である北京市、天津市、山東省、海南省においても独自のプランを施行しながら、それらの結果をもとに漸次全国に拡大していく予定となっている。以下で、新大学入試改革総合改革の各項目の詳細を見ていきたい。

３－３－１．大学入試内容改革

３－３－１．（１）新大学入試評価指針「一核四層四翼」

今回の改革においては、2014 年「実施意見」の「出題内容の基礎性・総合性を強化し、学生が自ら考え、学んだ知識を用いて問題を分析し、問題を解決する能力を重点的に考査する」という内容を受け、「知識」を考査することから「能力」を考査することへ、問題を「解く」ことから問題を「解決」する能力を考査することへと重点を移すことに力点が置かれている。

2015～2017 年にかけて、中国教育部・考試中心（中国文部科学省・大学入試センター）で様々な検討がなされ、新たな評価システムとして、「一核四層四翼」という新しい大学入試評価指針が導入された。具体的には、以下のとおりである。

１）一核：根本的な考査目標（なぜ試験するのか）

① 立徳樹人（徳・智・体・美・労において学生を全面的に発達させ、中国特色社会主義建設者と後継者を育成する）

② 服務選才（人材選抜を実施する）
③ 引导教学（教育に対する指針となる）

２）四層：教育目的を達成するために考査対象とすべき事項（何を試験するか）
＝教育に対する指針
① 必備知识…基本的・一般的な知識
② 関鍵能力…学んだ知識を基に、自ら考え、問題を分析し解決する力
③ 学科素養…様々な状況下において学んだ知識・技能により複雑な任務を処理する力
（しっかりとした学科素養と広い視野を持ち、実践能力・創新精神を持っていること）
④ 核心価値…中国特色社会主義の正しい価値観・社会的責任感

３）四翼：人材選抜（評価）のための観点（どのように試験・評価するか）
＝人材選抜に対する指針
「基礎性」・「総合性」・「応用性」・「創新性」[19]

３－３－１（２）新大学入試評価指針による作問・評価・採点

次に前項（１）の指針の下、どのような作問がなされているか、具体的な設問内容・評価・採点方法を見ていきたい。下は 2018 年全国Ⅰ巻国語試験作文問題（満 60 点）「ミレニアムベビーが描く中国の夢」である。なお、高考ではマークシート方式を採用しておらず、基本的に全教科記述式解答となっている。

下の資料を読み、要求に従って文章を作成しなさい。

2000 年：旧暦庚辰龍年、人類は新しい千年を迎え、中国では多くの「ミレニアムベビー」が誕生。
2008 年：汶川大地震。北京オリンピック。
2013 年：「天宮一号」初の宇宙飛行試験。
自動車道「村村通」完成間近、「精準扶貧」運動開始。
2017 年：インターネット人口 7.72 億人到達、インターネット普及率が世界平均を超える。
2018 年：「ミレニアムベビー」世代が成人に。
……
2020 年：小康社会の全面的完成。
2035 年：社会主義現代化の基本的実現。

---

19 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、PP.37-42

各世代にはそれぞれの世代においての出会いと機会、使命と挑戦があります。あなたたちは新世紀の中国と共に成長し、中国の新時代とともに夢を追いかけます。以上の資料により、あなたは何を連想し、何を思い考えましたか。「タイムカプセル」に入れて 2035 年の 18 歳世代に読んでもらうと仮定し、文章を作成しなさい。
要求：自分なりの見方を決め、意図を明確にし、文体を統一し、題名を付すこと。形式は問いませんが、剽窃や個人情報の漏洩がないようにしてください。文字数は 800 字以内とします。[20]

本設問は、「一核」の教育目標を反映し、「四層」として 21 世紀以降の中国の科学技術や国力、国際影響力等の面での成果と、第 19 回党大会により決定された 2020 年と 2035 年の国家目標（①必須知識）を材料とし、自らの世代へのアイデンティティを強化し、国家の進歩・民族振興への使命を再認識すると同時に、大国としての風格・自信を養い（④核心価値）、個人の成長と、国家、民族、来たる時代の関係を理解し（②関鍵能力）、中国の夢を実現するために自身が何を実践するか考え、表現させる（③学科素養）内容となっている。ここでは「一核四層」がわかりやすい問題を取り上げたが、他教科の作問においても、現実と問題とをリンクさせた、プラクティカルな内容が多い。

また、評価については、「四翼」である基礎性・総合性・応用性・創新性に基づき、下表に基づいて実施されている。この基礎点から、文章量や誤字数・タイトルの有無等により、減点が行われて、総得点となる[21]。

		１等 （16～20 点）	２等 （11～15 点）	３等 （6～10 点）	４等 （0～5 点）
基礎等級	内容項目 （20 点）	１．題意と合っているか、２．テーマが明確か、３．内容があるか、４．思想が健康か、５．真摯な姿勢があるか （※各項目を 1～4 等に分け、更に各等 5 段階で採点）			
	表現項目 （20 点）	１．文体が統一されているか、２．構成が整っているか、３．文章が整っているか、４．文字が丁寧に書いてあるか　（※同上）			
発展等級	特徴項目 （20 点）	１．深み［現象から本質を読み取る・物事に内在する因果関係を提示するものである・啓発作用のある観点を有する］があるか ２．内容［材料・論拠・具体的なイメージ・見識］が豊かであるか ３．文才［言葉の使い方が適切である・文章がスマートである・修辞手法に長けている・表現力がある］があるか ４．創意［斬新な見解・新鮮な材料・巧みな構想・独自の想像力や推理力・個性特徴］があるか　（※同上）			

[20] https://wenku.baidu.com/view/1151eb233d1ec5da50e2524de518964bcf84d280 (2020 年 2 月 13 日アクセス)
[21] https://wenku.baidu.com/view/4e6dfb5a710abb68a98271fe910ef12d2bf9a947.html (2020 年 2 月 13 日アクセス)

採点については、中国教育部・考試中心の方に実際の状況をインタビューする予定であったが、先方の都合等もありかなわなかった。以下、インターネットによる資料収集の結果をまとめたい。高考の国語科は必須科目であるため、毎年 1,000 万人近くが受験する（2019 年実績では約 1031 万人、日本のセンター試験受験者が約 58 万人）。中国では、中国教育部・考試中心のもと、各省レベルにおいて教育庁・招生弁公室（学生募集事務室）が設置されており、実際の試験運営・採点については、招生弁公室が中心となって実施される。採点には高級中学教員、師範学校教員（専科教員）、専門教授が参加し、ひとつの作文を二人の教員が採点したのち、一定の平均点数枠から外れた上位層及び下位層を再度審査する二段階方式を採用している[22]。

３－３－２．高級中学の教育改革

高級中学は、大学への進学率等により評価されるため、高考への対応は軽視できない。高考で難問が出題されれば、これを含む難易度まで指導内容を引き上げる必要があり、学生の試験負担が大きくなるという悪循環を生み出すもととなっている。

このため、教育部・考試中心では、新大学入試評価指針において、「知識」を考査することから「能力」を考査することへ、問題を「解く」ことから問題を「解決」する能力を考査することへと重点を移すことを強調している。2018 年高考大綱においても、難問・奇問の出題を避け、高考大綱・教室教材への回帰を強く打ち出しており[23]、各教科において、四層を反映した、①基礎的な知識能力、②様々な事象・データ・情報等の知識を結び付けて独自に考える総合力、③総合力を現実的・具体的な問題の発見・解決に結びつける応用力、④現実的・具体的な問題解決のため自ら新しい理想・プランを創造する創新力、を考査することを主眼としている[24]。

また、「一核四層四翼」という新大学入試評価指針に従い、四層である考査内容（＝高級中学で履修すべき内容）をもとに、2018 年 1 月に「普通高中課程方案と国語等学科課程標準（2017 年版）」（新指導要領）が発表され、2017 年に新設された教材局で教材等の改訂が進められている。

３－３－３．試験負担の合理的軽減　―高等教育就学ルートの拡大―

試験負担については、前項で述べたように、知識内容部分を合理的に削減し、総合力・応用力・創新力の考査を重視することにより、詰込み教育の負担を軽減している。しかし、自分の適性や、大学で何を学びたいかを考えず、周囲に推されて高考を受験する学生も多い。このため、高考・大学というルート以外の就学ルート拡大が模索されている。その一環として導入されたものが、

---

[22] https://baijiahao.baidu.com/s?id=1636868415217771760&wfr=spider&for=pc（2020 年 2 月 13 日アクセス）
[23] 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、P.46
[24] 同上、PP.46-64

高等職業教育課程（専科・職業技術学院）への進学を促す「分類考試」である。

本分類考試の中で大きな割合を占める「単独考試招生（単独試験募集）」では、春（３−４月）に各専科・職業技術学院が独自に試験を実施し、合否を決定するため、高考（６月実施）を受験する必要がない。また、試験科目も各校により異なり、大学入学のための３＋X 方式よりも教科数が少なく、代わりに技能試験や面接等が課せられることが多いため、志願者は自分の興味や目的に合った課程・科目を選択することができ、学習負担を軽減することができる。

更に、専科・職業技術学院では、公務員育成や、企業の人材育成のための専攻も多く、社会で必要とされている人材需要への対応策としても有効である。重慶航天職業技術学院の例を挙げると、「航空機製造技術専攻」は、企業である「通航集団」と共同運営、「自動車電子技術（新エネルギー自動車）専攻」は「長安自動車会社」からの受注育成、「フライト・アテンダント専攻」は「海南航空」からの受注育成等、就業に直結する専攻が多く、学生からも人気が高い[25]。

これら高等職業教育課程については、新大学入試総合改革開始と同じ 2014 年、国務院から「現代職業教育の発展加速に関する決定」が発表され、同年、教育部から公布された「高等職業教育創新発展行動計画（2015-2018 年）」「職業学院管理水準向上行動計画（2015-2018 年）」により強化・発展が図られてきた。2018 年 11 月の教育部発表では、今後、「国家職業教育改革実施法案」を制定・公布し、中国独自のハイレベル職業技術学院及び専科建設計画をスタートさせ、これらを技術・技能における人材育成訓練基地、技能創新・技術研究開発のプラットフォームとする計画が進められている[26]。

３－３－４．科目選択の自由

大学進学に係る科目選択については、第一試行地区でそれぞれ独自の取り組みが行われている。2014 年に公布された「浙江省深化高校考試招生制度総合改革試点方案（以下、浙江法案とする。）」および「上海市深化高校考試招生制度総合改革試点方案（以下、上海法案とする。）」より、現在実施されている科目選択方式について、下に概要をまとめる。

＜浙江法案＞

浙江省では、必須科目（国語・数学・外国語）と選択科目６科目を設定し、選択科目から３科目を選択することができるようにした。また受験機会も拡大され、国語・数学は６月の高考で受験するが、選択科目は高考とは分離して、４月と 10 月の年２回、省で実施する高中学業水平考試（高校学力水準テスト）を受験することとし、大学応募時には、２回のうち、どちらかよい方の成績を選んで出願できることとした。外国語についても６月の高考で受験できるほか、高中学業水平考試と併せて 10 月試験を実施し、年２回、受験可能としている。更に、大学への応募については、専攻を主体とした応募方法に改め、各大学があらかじめ受験科目等、選抜条件を策定・公表して

[25] http://cq.danzhaowang.com/bkzx/zsjz/150002.html (2020 年 2 月 13 日アクセス)
[26] 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、PP.29-31

おき、学生は専攻＋大学の形で応募することとした[27]。

＜上海法案＞

上海市では、2014 年入学の高校生から、受験教科に偏った指導が行われないよう、普通高校学力試験科目として 13 科目が設定され、各科目に合格試験（高校卒業資格試験）が設置された。さらに基礎課程を終えたのち、政治思想・歴史・地理・物理・化学・生命科学の６科目から３科目を選択・学習し、等級試験（進学用選択科目試験）を受験することになっている。大学進学する場合には、高考で国語・数学・英語の３科目＋普通高校学力試験・等級試験３科目成績による３＋３方式での募集が行われている。なお、英語については、受験機会も拡大されており、毎年１月にも実施され、高考の成績と比較してより良い成績を選択することができる[28]。

しかし、これら３＋３方式は、点数の取りやすい科目に学生が集中し、物理など点数の取りにくい教科を学ぶ学生が少なくなる、また、受験機会の拡大については、受験回数が多く、逆に学生の負担が増加した等の問題点も指摘されている。

３－３－５．多元採用

学生募集・採用については、清華大学の「領軍計画」・北京大学の「博雅計画」等、各大学での自主招生（ＡＯ入試）制度の導入も進められている。これらは各大学により様々な形式がとられているため、本稿では、多元採用の一環として、現在試行されている学生全体に係る募集・採用方式について取り上げたい。

＜浙江法案＞

浙江省では、2016 年から「三位一体」募集が実施されている。これは、「高考成績」、「高中学業水平考試成績（高校学力水準テスト）」、及び「総合素質評価試験」の三つの成績を一定の割合で総合し、成績を評価する募集方式である[29]。三位一体における「総合素質評価試験」は、各大学が事前に測定内容及び実施方法を公布し、学生の総合的素質・学科性向・専攻素質等について考査を行うもので、初回 2016 年の清華大学「三位一体」募集では、高考：高中学業水平考試成績：総合素質評価試験成績を、６：３：１の割合で換算・合計するものとし、105 人が募集された[30]。2018 年募集では、浙江省内の本科 15 校、専科・職業技術学院 30 校が本募集方式を導入し[31]、省外では北京大学、清華大学をはじめ、復旦大学、上海交通大学など、各地域の有名大学７校が本方式

---

[27] 同上、PP.26-27

[28] 上海市では英語に筆記・リスニングの他、PC を使用したスピーキング力測定（100 分・成績は 7 段階評価）が含まれている。https://wenku.baidu.com/view/62a88c719a89680203d8ce2f0066f5335a816799.html (2020 年 2 月 13 日アクセス)

[29] 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、P.27

[30] 同上、P.36

[31] http://www.gaosan.com/gaokao/177851.html (2020 年 2 月 13 日アクセス)

を採用している[32]。

＜上海法案＞

上海市でも、募集・採用において「高考成績」、「普通高校学力試験」、「総合素質評価」を導入しているが、浙江省の三位一体モデルと大きく異なるのは、「総合素質評価」の内容である。浙江省の三位一体モデルでは、大学が受験生に対し総合素質評価試験（総合素質評価テスト）を実施するが、上海市では、各高級中学が、①思想道徳発展状況、②中華優秀伝統文化素養、③課程履修状況と学業成績、④創新精神と実践能力、⑤心身健康状態、⑥趣味・個人特技等の６つの観点から、学生の成長過程を客観的に記録し、それを「総合素質評価」材料としている。このための情報化プラットフォームとして「高中学生総合素質評価システム」が構築され、2017 年から大学の自主招生等で使用されている。この「総合素質評価」が「二根拠一参考」モデル（高考成績および高校学力テスト成績に基づき、総合素質評価を参考として募集採用を行う方式）の「一参考」にあたる部分で、これまでの学力を基本とした募集・採用から一歩踏み込んだ内容となっている。

＜北京法案＞

北京市では、2017 年に「北京市普通高中学生総合素質評価実施方法」、2018 年に「北京市深化高校考試招生制度総合改革試点方案（北京法案）」が発表され、上海市同様、学生の総合素質評価制度を充実させることが打ち出された。高級中学では、①思想道徳、②学業成績、③心身健康、④健康的生活様式、⑤芸術素養、⑥社会実践の６つの観点から、「北京市普通高中学生総合素質評価電子プラットフォーム」上に具体的な活動・事実資料を記録し、記録された内容については、学期毎に審査を行い、最終評価をプラットフォーム上で公示することとしている。

さらに、学期毎の審査内容や、公示された評価内容については、毎年、区の教育委員会が抽出した 25％弱の高校を対象にシステム上で監査を行うこととしており、今後は、審査内容や公示された評価内容に異議がある場合、学生・保護者・教員から高校に申し立てができるようにする制度や、責任追及制度を整備することで、評価内容への信頼性を高めていく予定である。

なお、本総合評価内容は、学生自身が自分の長所・短所を把握し、今後の学習・進路計画等に役立てることができるほか、北京市の高校からの推薦学生、各大学による自主招生採用等での参考として使用される予定である[33]。

以上、多元採用のための新しい材料として、各省・直轄市における「総合素質評価」を見てきたが、中国では大学受験が非常に重要な意味をもつため、公平性の確保が大きな課題となる。このため、「三位一体」モデルを除き、試行地区においても「二根拠（高考の３科目＋高校学力テストの選択３科目）」を中心とした採用となっているのが現状である。首都・北京市でも総合素質評価の導入が決定されたが、採用の際に総合素質評価がどの程度まで「参考」とされるかは、今後の実践・検証を待つ必要がある。

---

[32] http://www.gaosan.com/gaokao/178174.html (2020 年 2 月 13 日アクセス)
[33] 楊学为主編、『中国高考報告（2019)』、P. 33-35

４．おわりに

以上、中国における高大接続改革（新大学入試改革総合改革）を概観したが、日本が抱えている問題と重なる部分が多く、より理解を深めていく必要があると感じている。改革開放から、四十数年で現在の水準に到達し、今や世界最大の教育規模を誇る中国での、高等教育の発展・改革のスピードには驚くばかりである。教育が社会的地位に直結した時代の名残や、各地域における開発・発展のスピードの差異もあり、教育・入試に対する国民の関心は非常に高く、緊張感と言えるほどである。また、就学前教育から高等教育まで、学生ばかりでなく、各段階の学校も常に評価に晒されており、公立学校の教員にも特級・1 級・2 級のランク付けが行われる等、教育機関及び教員間でも切磋琢磨するシステムが確立されている。このような土壌のもと、本改革が深化・拡大すれば、今後も更に優秀な人材の育成・輩出が行われることと思う。本研修以前には、中国について特に学んだことがなく、また中国語も初学者であるため、非常に乏しい理解であるが、中国の教育に対する関心とエネルギーには驚嘆するばかりであった。

最後に、本稿については、教育部・考試中心の方へのインタビューを予定していたものの、先方の都合や COVID－19 の影響もあり、高考の採点方法や、上海市での英語スピーキング能力テスト、北京市での総合素質評価等について、実際の状況が伺えなかったのが残念である。書籍やインターネットでの情報収集となってしまったが、本稿が日本の高大接続改革を考える際の一助となれば幸いである。

謝辞

本報告の作成にあたっては、多くの方にご協力を頂きました。テーマの方向性上、本稿では取り上げることができませんでしたが、お忙しい中インタビューに応じてくださった行知学園株式会社・楊舸代表、並びに名校志向塾・株式会社名校教育グループ・豊原明代表には、心からお礼申し上げます。お二方からは、中国での日本留学市場開拓や高等教育状況等について、様々なご示唆をいただきました。また、多様な業務に携わる機会を与えてくださった日本学術振興会北京研究連絡センター、廣田センター長、菅澤副センター長、公私にわたり、いつも明るく暖かく見守り支えてくださった江さん、佘さん、そして共に研修に励んだ内藤国際協力員にも、この場を借りて深く御礼申し上げます。

＜参考文献＞

※本文における参照順

※ウェブページは全て 2020 年 2 月 13 日最終アクセス

1. 中央教育審議会、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」、文部科学省 HP、平成 26 年 12 月 22 日公開、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf

2. 文部科学大臣決定、「高大接続改革実行プラン」、文部科学省 HP、平成 27 年 1 月 16 日公開、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/sonota/__icsFiles/afieldfile/2015/01/23/1354545.pdf

3. 【中国那些事儿】世界大学最新排名清華北大領跑亜洲、中国日報网、令和元年 9 月 14 日公開、
https://3w.huanqiu.com/a/72d6dc/9CaKrnKmP7e?p=2&agt=8

4. 遠藤誉、『中国教育革命が描く世界戦略 中国の国立大学法人化と産官学協同』、厚有出版、2000 年

5. 楊学为主編、『中国高考報告（2019）』、社会科学文献出版社、2018 年

6. 周慧梅編著・三潴正道監訳・平野紀子訳、『図解現代中国の軌跡　中国教育』、科学出版社東京、2018 年

7. 井上侑子、「中国の大学における教員業績評価－世界レベルの大学構築を目指して－」、日本学術振興海外学術ポータルサイト【国際協力員レポート・中国】、2019 年 4 月 4 日公開、
https://www-overseas-news.jsps.go.jp/wp/wp-content/uploads/2019/04/2018kenshu_15pek_inoue.pdf

8. 中国国家重点大学一覧、科学技術振興機構サイエンス・ポータル・チャイナ、
https://spc.jst.go.jp/education/university/univ_000.html

9. 教育発展統計公報、中華人民共和国教育部 HP
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_fztjgb

10. 天野一哉、『中国はなぜ＜学力世界一＞になれたのか 格差社会の超エリート教育事情』、中央公論新社、2013 年

11. 王輝耀・苗緑編、『中国留学発展報告（2017）No.6』、社会科学文献出版社、2016 年

12. 「諸外国の教育統計」平成 31（2019）年版、文部科学省 HP、
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074.htm

13. 「2018 年高考全国Ⅰ卷语文作文：时光瓶留给 2035 年的 18 岁青年」、百度文庫、2018 年 6 月 7 日公開
https://wenku.baidu.com/view/1151eb233d1ec5da50e2524de518964bcf84d280

14. 「2018 全国 1 卷高考国語作文評分標準」、百度文庫、2019 年 11 月 30 日公開、
https://wenku.baidu.com/view/4e6dfb5a710abb68a98271fe910ef12d2bf9a947.html

15. 「高考作文評分原来是这么来的」、百家号、2019 年 6 月 21 日公開、
https://baijiahao.baidu.com/s?id=1636868415217771760&wfr=spider&for=pc

16. 「重慶航天職業技術学院 2019 年全国普通高考招生簡章」、高職单招網、
http://cq.danzhaowang.com/bkzx/zsjz/150002.html

17. 「上海市高考英語口語考試」、百度文庫、2019 年 10 月 10 日公開、
https://wenku.baidu.com/view/62a88c719a89680203d8ce2f0066f5335a816799.html

18. 張秀秀、「2018 浙江三位一体招生院校名单公布」、高三網、2018 年 6 月 5 日公開、
http://www.gaosan.com/gaokao/177851.html

19. 張秀秀、「2018 浙江省外三位一体招生学校有哪些」、高三網、2018 年 6 月 15 日公開、
http://www.gaosan.com/gaokao/178174.html

20. 大塚豊、『中国大学入試研究 変貌する国家の人材選抜』、東信堂、2007 年

21. 園田茂人・新保敦子、『叢書中国的問題群(8) 教育は不平等を克服できるか』、岩波書店、2010 年

22. 中島恵、『中国人エリートは日本をめざす なぜ東大は中国人だらけなのか？』、中央公論新社、2016 年

23. 日本比較教育学会編、『比較教育学研究（第 53 号）特集：比較教育の視点からみた日本の大学入試改革（論)』、東信堂、2016 年

24. 読売新聞教育部、『大学入試改革　海外と日本の現場から』、中央公論新社、2016 年